第６１回理事会・第２９回社員総会　議決

令和７年度

事　業　報　告　書

令和７年４月１日から

令和８年３月３１日まで

公益社団法人　北之台雅楽アンサンブル

【基本方針】

（１）公益目的事業Ⅰ―国内雅楽演奏会等の開催
（２）公益目的事業Ⅱ―海外雅楽公演等の開催
（３）公益目的事業Ⅲ―教育機関等における雅楽紹介
（４）公益目的事業共通―公益目的事業Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに共通する内容
（５）管理・広報部門の充実（法人活動）

【具体的事業】

（１） 公益目的事業Ⅰ―国内雅楽演奏会等の開催

① 国内雅楽演奏会

【事業名１：地域における雅楽の振興】
a. 事業の名称「天神社おたち祭　雅楽奉納」
b. 事業の趣旨：地域の催しに参加し、地元に雅楽の振興を深める機会を増やすことを願いとし、本年度も地元長者天神社のおたち祭に雅楽を奉納した。
c. 日　時：令和 7 年 10 月 31 日（金）
d. 場　所：いすみ市長者天神社境内
e. 参加者：一般　2 回の演奏に、約 120 名が参加
f. 入場料：無料
g. 演　目：管絃「双調音取」「鳥急」、舞楽「青海波」
h. 出向人員：楽人 9 名、舞人 2 名、スタッフ 4 名　　計 15 名
i. 主　催：いすみ市長者町地域商工会

【事業名２：教育公演－雅楽福山特別公演】
a. 事業の名称「教育公演－雅楽福山特別公演」
b. 事業の趣旨：女性と女児の社会的地位向上を目的とする奉仕団体・国際ソロプチミスト福山の主催により、「教育公演―雅楽福山特別公演」を開催した。同団体はこれまで能・狂言・文楽のワークショップ等を実施し、福山市における芸術文化の振興と市民の文化享受機会の拡充に取り組んできた。本公演も社会貢献および教育的意義を重視し、入場無料で実施した。
c. 日　時：令和 8 年 2 月 21 日（土）16：00～18：00
d. 場　所：ふくやま芸術文化ホール・リーデンローズ・大ホール
e. 参加者：一般・学生　約 1,500 名

f. 入場料：無料
g. 出向人員（宮内庁楽師含む）：楽人 12 名、舞人 8 名、スタッフ 7 名、計 27 名
h. 特別出演：安齋省吾（元宮内庁楽部首席楽長）
大窪貞夫（重要無形文化財保持者）
久恒壮太郎（重要無形文化財保持者）
i. 演　目：楽器紹介、管絃「平調音取」「越殿楽」「陪臚」
舞楽「五節の舞」「青海波」右舞「抜頭」
j. 主　催：国際ソロプチミスト福山
k. 反　響：

- 募集開始直後から学生団体や文化連盟など多くの応募があり、当日は約 1,500 名が来場し、大盛況だった。また、外国人留学生の招待などを通じ、国際文化交流の促進にも寄与した。
- アンケートでは、第一部（管絃）は、楽器の解説が分かりやすく、初心者でも理解しやすかったとの声が多く、笙や篳篥など雅楽特有の音色の美しさや、日本の伝統文化としての価値に感動したという意見が多く見られ、パンフレットを見ながら聴くことで理解が深まったとの評価もあった。また、中国唐代の音楽を日本が伝承していることへの感慨を述べる意見もあった。
- 第二部（舞楽）では、舞と音楽の調和に加え、「五節の舞」「青海波」の華やかな装束、整った所作と力感あふれる「抜頭」が披露され、来場者から高く評価された。
- ゆったりとした時間感覚やユニゾンの美しさ、歴史ある芸能を若い演者が継承している点にも感動の声が多くあった。
- 普段触れる機会の少ない雅楽を生で体験できたことへの感謝や、日本文化の素晴らしさを再認識したという声が多く、楽器や装束の展示、若い世代（特に子ども）への普及を望む意見もみられた。

②　雅楽に関する講演会

【事業名 1 ：第 17 回「雅楽と国際文化交流」】
a. 事業の趣旨：国内外の各界の有識者を招聘し、日本文化を中心に多岐に渉るテーマについて講演を行い、国際文化交流を推進すると共に、日本の伝統文化である雅楽の紹介を願いとした。第 17 回は、雅楽を多角的に研究することを趣旨とし、竣工 100 周年を迎えた東大安田講堂を使用し、同大学で学位を取得された鈴木聖子准教授による講演を行った。第二部は実演として雅楽演奏を実施した。
b. 日　時：令和 7 年 11 月 16 日（日）14：00～16：00

c. 場　所：東京大学安田講堂（東京都文京区）
d. 参加者：一般・学生　約 850 名
e. 入場料：前売り 2,500 円、当日 3,000 円、学生 1,000 円
f. 内　容：
　　司　会：羽田野直道（東京大学生産技術研究所教授）
　① 講　演
　　講　師：鈴木聖子（大阪大学大学院人文学研究科准教授）
　　テーマ：「日本音楽史をめぐる幻想 ～東京帝国大学・
　　東京大学出身の音楽研究者たちの声を聴く」
　② 雅楽演奏
　　演　目：楽器紹介、管絃「双調音取」「陵王」「鳥急」
　　舞楽　右舞「還城楽」
g. 出向人員（宮内庁楽師含む）：楽人 17 名、舞人 2 名、スタッフ 31 名
　　計 50 名
h. 特別出演：安齋省吾（元宮内庁楽部首席楽長）
　　大窪貞夫（重要無形文化財保持者）
　　久恒壮太郎（重要無形文化財保持者）
i. 主　催：公益社団法人北之台雅楽アンサンブル
j. 反　響：
- 藤原時代には家庭音楽であった雅楽。主人が笙、客が琵琶、妻が箏を手に取り、自然と合奏が始まるという光景が語られた時、ハッとしました。
- 物理学専攻の自分にとって、物理学者が音楽研究をしていたという話はとても興味深かったです。
- 安田講堂の雰囲気が雅楽にぴったりで驚きました。音響も照明も素晴らしかったです。
- 舞人の体幹の強さに圧倒されました！
- 双調音取から鳥肌が立ち、陵王の終わり方が格好良く痺れました。鳥急は美しすぎて涙が出ました。舞楽は初めてで感動しました。
- 鳥急が特に印象的でした。子どもが舞ったらさぞ可愛いだろうと想像が膨らみました。還城楽も足運びの見事さに加え、蛇を見つけた喜びの表現など、とても楽しく鑑賞できました。
- 心が落ち着く不思議な音色。指揮者のいないオーケストラというスタイルが印象的で、互いの音を聴き合いながら調和していく姿に東洋的精神を感じました。

k. 駒場キャンパス・プレイベントの開催：
- 11 月 16 日の本公演に先立ち、東京大学副学長の岸利治教授、教養学部長の寺田寅彦教授のご尽力により、東京大学教養学部・ピ

アノ委員会主催のもと、10 月 9 日に駒場キャンパス KOMCEE East 前広場において、宣伝を兼ねたプレイベントを開催した

・ 当日は昼休みに集った約 200 名の学生を対象に、楽器紹介の後、管絃「平調音取」「越殿楽」、舞楽「青海波」を披露した。鮮やかな装束は、駒場キャンパスの銀杏並木の緑に美しく映え、初めて目にする雅楽に対し、強い関心と興味が寄せられた。

（2） 公益目的事業Ⅱ―海外雅楽公演等の開催

① 海外雅楽公演及びそれに伴う事業

【事業名 1 ：ボストン日本祭り舞楽演奏】

a. 事業の趣旨：ボストン日本祭りは、2012 年の桜寄贈 100 周年を契機に始まった日本文化の祭典であり、毎年約 3 万人が来場。ハーバード大学やマサチューセッツ工科大学などの学生・研究者、留学生に、日本の古典芸術である雅楽を紹介する貴重な機会となっており、本企画を継続することで、日米の文化交流に資することを願いとした。

b. 渡航期間：令和 7 年 4 月 23 日～28 日（4 泊 6 日）

c. 渡航先：ボストン（米国）

d. 渡航人数：2 名

e. ボストン日本祭り内容：

・ 日　時：4 月 26 日（土）

・ 場　所：ボストン・コモン・メインステージ

・ 参加者：一般 300 名

・ 演　目：神楽舞「浦安の舞」（音源 CD）

・ 受入れ機関：ボストン日本祭り実行委員会
米国マサチューセッツ州法人・サンボー5 教育財団

・ 反　響：参加者からは、ポップカルチャーに偏りがちな海外における日本文化紹介の中で、本格的な日本文化を紹介する意義が高く評価された。主催者からは、継続した参加に謝意が述べられ、今後の参加を切望された。

② 海外における教育機関における雅楽演奏会、日本文化体験教室

対象事業はない。

（3） 公益目的事業Ⅲ―教育機関等における雅楽紹介

① 雅楽演奏会

【事業名 1：東京大学「雅楽のからくり」イベント】

a. 事業の趣旨：本企画は、東京大学パフォーマンス研究／制作を専門とされる中井悠准教授が手がける「音楽のからくりシリーズ」の一環として、雅楽を取り上げ、学生および一般を対象に広く雅楽を紹介することを願いとした。また、東大雅楽部設立に向けた募集を目的に実施された。

b. 日　時：令和 7 年 12 月 5 日（金）13：15～15：05

c. 場　所：東京大学駒場キャンパス 18 号館ホール

d. 参加費：無料

e. 内　容：

《雅楽ワークショップ》

・ 参加者：東大生限定とし　20 名
・ 内　容：三管（笙・篳篥・龍笛）の説明と唱歌の紹介
　　三管・両絃・三鼓の楽器体験

《雅楽演奏会》

・ 参加者：東大生および一般　約 140 名
・ 演　目：管絃「平調音取」「越殿楽」「陪臚」
　　舞楽「賀殿急」

f. 出向人員（宮内庁楽師含む）：楽人 11 名、舞人 2 名、スタッフ 3 名
　　計 16 名

g. 特別出演：安齋省吾（元宮内庁楽部首席楽長）
　　久恒壮太郎（重要無形文化財保持者）

h. 反　響：

・ 11 月 16 日の安田講堂公演のあとの企画でもあり、いいタイミングでの企画だったと評価された。
・ 雅楽取得を希望する学生が数名、東大雅楽部への入部を希望する等大変効果的企画だった。
・ 安齋先生、久恒先生にも特別出演をいただき、素晴らしい演奏だったと称賛された。

②　雅楽体験教室

【事業名 1：伝統芸能・洋楽～ふれあい体験事業　千葉県庁委託事業】

a. 事業の趣旨：当該事業は千葉県環境生活部県民生活・文化課策定の「伝統芸能・洋楽～ふれあい体験事業」実施要項に基づき実施した。千葉県内の小中学校の児童・生徒を対象に、邦楽理解の向上と伝統的音楽文化の普及・振興、並びに邦楽における後継者育成に寄与することを趣旨とした。

b. 日　時：令和 7 年 9 月より令和 8 年 1 月

c. 場　所：千葉県内小中学校 8 校（千葉県教育委員会推薦）

① 松戸市立六実第三小学校：9 月 18 日 13:45 ～ 15:25
参加者　4～6 年生　計 164 名

② 浦安市立舞浜小学校：10 月 23 日 13:30 ～ 15:05
参加者　6 年生　計 98 名

③ 成田市立玉造中学校：12 月 8 日 13:30 ～ 15:10
参加者　全校生　計 200 名

④ 富里市立富里南小学校：12 月 10 日 13:35 ～ 15:10
参加者　4～6 年生　計 177 名

⑤ 富津市立富津小学校：12 月 11 日 12:45 ～ 14:15
参加者　全校生　計 104 名

⑥ 船橋市立高根台第二小学校　：1 月 9 日 13:40 ～ 15:15
参加者　6 年生　計 100 名

⑦ いすみ市立浪花小学校：1 月 14 日 13:30 ～ 15:15
参加者　全校生　計 28 名

⑧ 袖ケ浦市立蔵波小学校：1 月 15 日 10:30 ～ 12:10
参加者　6 年生　計 240 名

令和 7 年度合計　1,111 名

d. 内　容：

雅楽鑑賞：「楽器紹介」管絃「平調音取」「越殿楽」「越殿楽今様」
舞楽鑑賞：舞楽「賀殿急」
舞楽体験：左舞・出手
質疑応答

e. 参加人員：楽人 11 名、舞人 4 名、スタッフ 4 名　計 19 名

f. 反響・感想：

- 体験事業 13 年目となった本年は実施校数延べ 89 校、生徒数 14,800 名となり、昨年に引き続き多くの生徒に雅楽の紹介・体験を実施する事が出来た。
- 感染症対策やインフルエンザの流行等、感染症への対応については、国や県のガイドライン及び各学校の感染防止対策に準じて対応し、円滑に事業を進めることが出来た。
- 昨年度に引き続き、NHK「BS おかあさんといっしょ」の「うたのおにいさん」を務め「おかあさんといっしょ」番組内人形

劇の声優として出演されていた、ひなたおさむ氏に、司会及び「越殿楽今様」の歌手としての出演を依頼した。

- 児童からひなたおさむ氏に対しては「説明がわかりやすい、声もはっきりして聞きやすかった」「以前テレビで見ていた」「自分もコーラスをやっているので、声楽家としてのプロの歌声も聞けて勉強になった」「越殿楽今様の四季の表現の美しさがよくわかった」など好評だった。ひなた氏のキャリアを活かした子供たちへの対応や各年代に合わせた話題、シナリオの補足的な説明、話し方、声色など様々な工夫によって児童の反応も良く、他にも参加された地域の方や各学校の教諭への対応、また舞楽体験時には司会として、進行のサポートをしてくださり、体験も円滑に進められた。
- 越殿楽今様では生徒に歌詞カードを配り、対象の学年や授業の進行状況に合わせて、わかりやすいように歌詞の解説を行った。また演奏では、歌える子は一緒に歌うように促し、生徒も積極的に参加できるような鑑賞を行い、実際にひなた氏と共に歌う生徒の姿や生徒たちだけで歌っている姿も見られた。
- 授業後にはその場で多くの質問も頂き、また感想カードにも身近ではない音楽文化に対する子供らしい素直な感想や質問も多く寄せられ、生徒たちが積極的に興味をもって取り組んでくれたことが感じられた。
- 実際に鑑賞する事で、授業や音源・映像からは感じられない生演奏の迫力や楽器同士の響き合い、装束の色彩の美しさを感じられたという感想や感謝の声も多く頂き、雅楽という文化の特異性やおもしろさ、芸術性の高さ、そして文化が継承されていくことの重要性を理解していただけた。
- 現地の学校の校長先生や担当教員の中には、以前の学校で本体験事業に参加された方もいた。その方々からは「以前赴任していた学校での本体験事業が大変素晴らしかったので、移動後の学校でもぜひ希望したいと考え、今回実際に応募した」との声を頂戴した。毎年継続する中で、県内の小中学校や学校関係者間にも本体験事業が知られ、好評を得ていることがわかった。
- こうした事業の継続によって、本体験事業の目的である邦楽理解の向上や伝統音楽の普及が、子供たちだけでなく、千葉県内の教育機関や地域社会など幅広い範囲へ伝わることで、県内の青少年の情操教育にも効果が見込めたのではないかと思われる。

（以下、感想抜粋）

- 子供たちの豊かな情操教育のために芸術鑑賞教室を実施していますが、伝統芸能の分野は初めてのことだったので、職員、児童にとっても良い体験となりました。絢爛豪華な衣装、荘厳な楽器と演奏を間近で鑑賞したことは勿論、共に体を動かして舞振りをしたことが、子供たちにとって新たな興味関心を湧きたたせるきっかけとなったようです。また質問にも丁寧にお答えくださりありがとうございました。今後の学習指導にも生かしていきたいと考えております。（担当教員）
- 何よりも平安時代からあんなにまとまった楽器演奏があったことがとても驚きました。千数百年も前から今まで伝わっている雅楽はとてもすごいし、あとの時代まで残せた人々の力もすごいと思いました。（生徒）
- 昔の人は音を聞き、それが天から降りそそぐ光と言ったり、天と地の間の龍の声に例えたり、発想や想像が豊かですごいと思いました。重要無形文化財に指定されていることも知りませんでした。藤原氏や歴史上の人物たちも聴いていたのかと考えると、とても感動しました。（生徒）
- 司会の人の声が聴き易くて、なるほどと思いながら楽しめました。楽器紹介では風景を想像しながら聞けました。歌声は声量がありすごい迫力でした。雅楽自体よく知りませんでしたが、今様という歌まであることは知りませんでした。四季の歌詞では風景を思い浮かべました。テンポが難しかったですが、つい目を閉じてしまうほどゆったりした音楽だったのが印象的でした。（生徒）

③　雅楽研修会

対象事業はない

（４）　公益目的事業共通

①　装束及び楽器の補充及び修繕

②　雅楽演奏者並びに装束師育成のための練習会、衣紋講習会の実施

（５）　管理・広報部門の充実（法人活動）

① 広報活動

a. Web、情報誌、パンフレット、チラシを媒体とした PR 活動の推進
b. 賛助会員募集（個人会員）の推進
c. 年会報（年一回）の作成発行（賛助会員配布用）

② 事務機能の充実

a. 定款による事務業務の遂行

（6）法人の運営体制の充実を図るための取組

当法人では、公益目的事業の適正かつ継続的な実施を確保するため、組織運営の強化、内部統制の充実、人材育成及び関係機関との連携強化に取り組んでいる。

① 部会制度による組織運営の強化

正会員の専門的知識及び経験を活用するため、経理、総務、広報編集、海外事業推進、国内事業推進、雅楽楽器・装束管理及び文化資料に関する各部会を設置し、規程に基づき運営している。各部会は毎月定期的に会合を開催し、事業の進捗確認、課題の抽出及び改善策の検討を行うことにより、組織的かつ効率的な事業運営に努めている。

② 内部統制及びガバナンスの強化

2019 年の内閣府立入検査における指導を踏まえ、毎年度内部監査を実施している。内部監査は、理事１名及び正会員１名を監査担当者として選任し、監事と連携して実施しており、法人運営及び会計処理の適正性について検証を行い、必要に応じて改善を図っている。

また、理事及び監事を中心に、個人情報保護の重要性、関係法令、定款及び諸規程の遵守状況を継続的に確認し、コンプライアンス意識の向上及び適正な法人運営の維持に努めている。

③ 専門的人材の育成及び継承体制の整備

当法人は、雅楽の保存・継承及び普及を担う公益法人として、宮内庁楽師による指導のもと、演奏技術の向上及び後継者育成に継続的に取り組んでいる。令和７年度は、東京大学雅楽部の設立及び活動開始を支援し、若手演奏者の育成基盤の拡充に努めた。これにより、将来

の雅楽継承を担う人材育成体制の強化を図った。

④　外部連携及び社会的信頼の向上

一般社団法人雅楽協会との連携を通じて、他の雅楽団体との情報交換及び協力体制の構築を進めるとともに、雅楽界全体の発展に資する活動を推進している。

また、海外公演及び国際文化交流事業を継続的に実施し、在外公館、国際交流基金、日本万国博覧会記念基金等の関係機関との協力関係を維持・強化している。これらの活動を通じて、日本の伝統文化である雅楽の国際的な普及に努めるとともに、公益法人としての社会的信頼の向上及び事業基盤の強化を図っている。さらに、国内外の大学及び文化機関との交流を通じて、将来的な国際的文化交流ネットワークの形成に向けた基盤整備を進めている。

⑤　支援基盤の維持・強化

公益目的事業の安定的な実施に向け、会員及び一般支援者からの寄附その他の支援を受けながら、健全な財務基盤の維持及び事業継続性の確保に努めている。

以　上